

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	コベルプラス西国分寺教室（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2026年1月7日		～ 2026年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50名	(回答者数) 8世帯
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年1月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 19名
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	32	(回答数) 18施設
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	連携を重視した支援体制	本人への直接支援に加え、担任や保護者との連携を大切にし、支援方法や対応についてこまめに相談・情報共有を行っている。	支援先や保護者との情報共有の機会を定期的に設け、支援内容や方向性を共通理解できるようにする。 また、相談内容や助言内容を記録として残し、組織内でも共有することで、連携の質の向上を図る。
2	本人の気持ちを尊重した支援	本人の意向や心理面の変化を丁寧に見取り、発達状況や就学についても関係者と協働して検討することで、安心感のある支援を提供している。	本人の思いや気持ちの変化をより的確に捉えるため、アセスメントの視点を整理し、観察や記録の工夫を行う。 本人の成長段階を反映した支援目標の設定や振り返りを行い、より成長につながる支援となるよう取り組む。
3	専門性を生かした具体的な助言	専門的知識に基づいた具体的で分かりやすい助言や提案を行い、担任にとっても学びや支えとなる支援を実施している。	支援員間で事例検討を行い、実践例や有効だった支援方法を共有することで、助言内容の質を高める。 また、担任が日常の保育・授業で活用しやすい資料やツールの作成を進め、支援の継続性を高める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の機会に制約がある	訪問支援の回数や対応可能な児童数に限りがあり、支援ニーズに十分対応できない場合がある。	訪問頻度や支援内容を見直し、優先度の高いケースを中心に計画的な支援を行う。 また、限られた訪問回数の中でも効果的な支援が行えるよう、助言内容を資料化するなど、支援側が日常的に活用できる支援方法の提供を工夫する。
2	研修や事例検討など、実践的に学ぶ機会がない	職員の支援力向上のため、事例検討や同行訪問など、実践的な研修体制の充実が課題である。	事例検討会や同行訪問、先輩職員の経験共有の場を設け、職員が実践から学べる研修機会を計画的に確保できるように検討する。 自己評価結果を職員に周知し、改善点を共有することで、PDCAサイクルが実践につながる仕組みづくりを進める。
3			